

日時： 令和3年12月3日(金) 10:50~12:20  
場所： オンライン形式

参加者：富山短期大学 幼児教育学科の学生 81名

## ○実施概要

コロナ禍の中、人同士の接触を避ける開催方法として、日本財団パラリンピックサポートセンター(2022.1~日本財団パラスポーツサポートセンター)が提供するオンライン版「あすチャレ! Academy」のプログラムを活用しワークショップ型で開催。パラアスリートが講師となり、オンライン上で参加者とコミュニケーションを取りながら、疑似障害者体験(目をつぶって駅のホームの音を聞く)や、サポート方法の実演等を学んでもらい、共生社会や心のバリアフリーを理解・体現できるよう意識醸成を図りました。



## ○参加者の声

- ・過去に白状を持った人を見たことがあり、その時はそのまま通り過ぎてしまったが、「何かお手伝いすることはありますか?」という声かけが、安心感をもたらしたり、コミュニケーションにも繋がったので、これからは困った人がいたらすぐに助けてあげられるようにしたい。
- ・もし視覚的な障害のある方に街中で出会ったら「大丈夫ですか?」と聞くのではなく、「何かお手伝いすることはありますか?」と、答え方に選択肢のある聞き方を実践してみたい。
- ・声の掛け方や、伝え方などのポイントを知ることができたので、自分から積極的に声をかけたいと思う。
- ・簡潔に分かりやすい説明で、自分が思っていた障がいの世界とは見え方が変わってきた。
- ・実際に実践しながら視覚障害の方への声のかけ方を説明している点が分かりやすかった。
- ・オンラインではなくて、実際にきいてみたいと思うくらい楽しかった。
- ・上下肢障がいのことについて、配慮点や車椅子を押すときの注意点などを教えていただきたかった。
- ・パラリンピックについて、どんな競技があるのか、どのように障がいの程度が分かっているのか、もっと知りたいなと思いました。
- ・日本のバリアフリーは海外と比べるとどれくらい進んでいるのか?または遅れているのか?そして、いま自分たちにできることは何かが知りたい。